

## 「神奈川の森から生まれたログハウス」

～丹沢の杉約 150 本、桧約 700 本を使用して～

神奈川県産材のみを使ったログハウスを見せて頂いた。建具を製作されている方の作業場兼住居である。建て替えの際、木を扱っている者としてせっかくなら“木”“ログ”で建てようという事である。

秦野市内の森林組合に直接交渉し、末口直径 20 c m φ 以上の杉、桧を計 850 本を 5 か所の山から切り出しをし、芯材をログ丸太に、端部はご自身でスライスし床材に、残った材は薪やチップにしご近所に配られたとの事。いかに廃材を出さないかを考えられたという。木材切り出しについては「新月伐採、4～6 カ月の葉枯らし乾燥の実施」とこたわられ、最初の伐採時にはお施主様ご本人が家族と一緒に 1 本伐り、木を伐る人と施主が直接顔を合わせ、施主自身も山を知る事に大きな意味があったと話をされていた。

「県産材を使って家を建てる」事についてよく話題に出るが、(地域によるが) 実際は材がなかなか揃わない等、色々大変な様である。特に今回の様に太い材を多量に揃える事は相当困難を伴い、理由は、山にそれなりの木がなかなか無い という事の様である。

建築にも「地産地消」が言われている。特に木など自然素材は尚更地元環境にあったものが最適であろう。

山に適材が無いのを嘆くより、使って使って、山を育てる事をしなければならない。

残暑厳しい折だったが、家の中に入るととても涼しいのに驚いた。また 2 階の住居部分で皆で話をしていたが、この木で囲まれた空間はとても落ち着き、ついつい長居をしてしまった。人はやはり自然のなかで過ごすのが一番素直なかたちだと思った。



(吉原直美記)